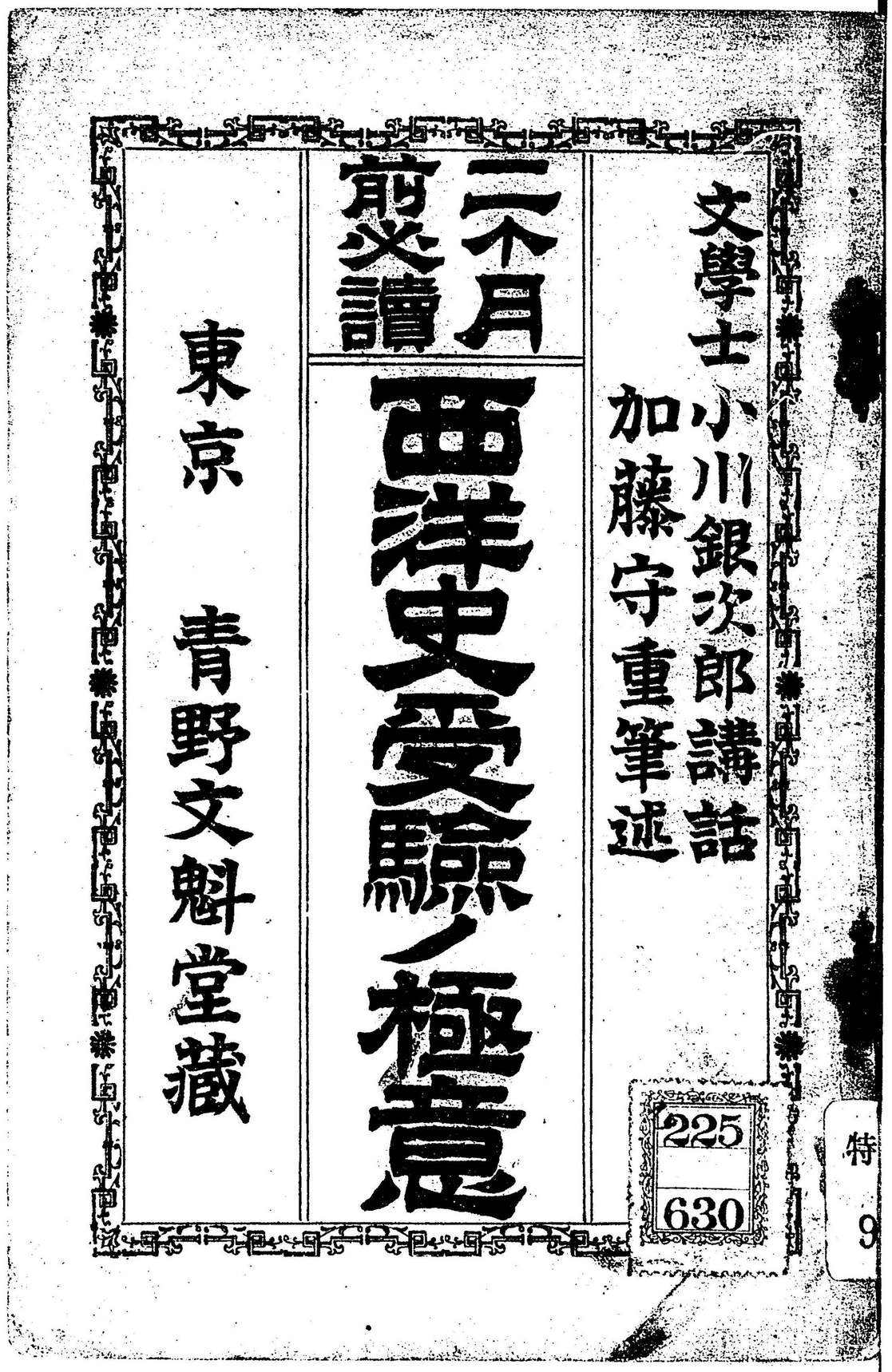


049588-000-7

特28-992

西洋史受驗の極意（二ヶ月前必読）

小川　銀次郎／述

M37

BEM-0287

特28
992

緒言

戰に捷を得んとせば必ずまづ戰の術を知らざるべからず歴史に通ぜんと欲せば必ずまづ之を學ぶの法を知らざるべからず歴史は上下五千有餘年の事實を網羅し大小輕重の事蹟錯綜しそのいづれが重要にしていづれが輕微なるやを知ることすら難しとする所なり徒に史を繙きて之を習得せんとするは所謂蛙鳴蟬譟に類し勞多くして效少きこと恰も地理戰術を詳にせずして兵を動すが如し況んや數十日の履修を以てよく受驗に應じ成效を期せんとするに於てをや是に於てか歴史受驗の戰にまづ之に應ずるの軍略を講じ

明治22
内交

重要事件の鑑別記憶の方法受驗の方策に通ずるの要を見るなり文學士小川銀次郎氏西洋史教授の任にあること多年深く學生の通弊を觀て之を矯正するに意あり受驗生を集めて西洋史受驗に須要なる事項を講話し殆んど遺憾なく聽くものまた深く之を諒とせり嗚呼天下受驗生の多き歴史履修に苦めるもの幾何ぞ余深く之を憂ひ筆記を携帶して同學士を訪ひ上梓の許可を要めたり同學士笑つて首肯するのみ同胞學生幸にこの講話を一讀せば庶幾くば成效期して待つべきものあらん

明治三十七年二月

筆述者誌

目次

第一章　歴史を記憶するの便法
第二章　重要事實の鑑別法
第三章　受驗者の心得
第四章　試驗場の心得

三ケ月前必讀

西洋史受驗の極意

文學士　小川銀次郎講話
加藤守重筆述

第一章　歴史を記憶するの便法

●歴史の記憶について

何時の頃何處より始めて言ひ出しけん、青年學生は中學程度の學科を自然に分割して二種とし、一を練習的學科とし、一を諳記ものと稱す。前者には英語・國語・數學等の諸科を列し、後者には、地理、歴史、博物等の諸科を算ふ。曰く英語・國語・數學の如きは日常勉强するにあらざれば易く學力のつくものに非らず。故に試驗前には勉强しても效なきを以て、須ら

く毎日これを豫習復習し、書生生活必須の家業とすべし。之に反して譜記ものの諸學科は平常勉強するも、直ちに忘却するによりて、殆んど試驗の用をなさず、寧ろ日々講義を聞く丈に止め、愈試驗前數日といふ場合に至らば、練習的學科を放棄し、專心數夜の間に一時にこれを記憶すれば可なりと。

誠に然り、練習的學科例令へば英語數學の如きは、如何に熱心に、如何に血眼になりて、數日間熱心に勉強すとも、更に何等の功あるものにあらず。日常若干の見聞を擴め、幾何かの智力を增進し、漸次その學力を養成すべきなり。然れどもその譜記ものたる歷史が如何にして譜記ものの列に加へられ、試驗前數日の間に古今五千年間の事實を記憶し了得し得可きやを解すること能はざるなり。余輩不敏ながら敎鞭をとること茲に十有餘年、靑年學生が如何にこの誤謬に陷りて噬臍の悔をなせるを見ること枚擧に遑あらず。これ蓋し歷史を譜記ものの中に列し日常放棄するの罪のみ。

歷史は世の盛衰興廢を論じ、興味津々たることは何人も首肯する所にして、熱心注意して講義をなすときは、軍談講釋を聞かしむるよりも更に一層の愉快を感ぜしむるに難からず。而して聽くものは喜んで之を傾聽し大に快と叫ぶもの比々皆然り。然りと雖講義を聞きたる後更に復習することもなく、追想することもなく、唯一時の愉快と稱するのみにして忽ち忘却し去り、何等の印象を存することなし、而して次回の講義を聽くときに至りては、前回如何なる講義を聽きたるかを忘れ、唯連絡もなく關係もなくして一新事實を聞けるものあり。斯の如くしてもなほ亦快と叫ぶもの多し。

かゝる趣味多き學科なるに關せずこれを記憶するに至りては甚だ困

難を感ずるもの多し、第一に頭腦を苦しむるものは年代なり、ついで聞き馴れざる人名なり、地名なり、これに伴ふ複雜なる事實なり、上下五千餘年間の事實を短日月の間に記憶し盡す、この難また實に察するに餘りといふ可し。これ歴史が興味多きに關せず青年學生の歡迎せざるもの多き所以なり。

●一般學生の記憶法

惟ふに歴史の歡迎せられざるは歴史自身の罪にあらずして記憶し難きにあり、記憶し難きにあらずして記憶法當を得ざるにあり、左に普通一般學生が如何なる記憶法を採りて苦痛に呻吟するを見ん。

余輩が見る所の第一は日常の復習を忽にし、一時に無數の事實を記憶せんとすることこれ一なり。試驗前數日に至れば卷初より漸次に教科書の默讀を始むるなり。事實は無限なるに時間は切迫せり。これを以て複雜なる事實を了解會得するの遑を有せず、事解し難き點に遭遇するときは講義が如何ありしかを考ふるの時を有せず、筆記帳が如何にこれを説明しあるかを調ぶるの遑なし。たとひ時間ありとするも日常の復習を忽にしたるを以て、事實の眞相を腦中に畫く事容易の業にあらず。遂に止むを得ずして教科書を全然諳記するに至れり。字句は非常の苦心を以て誦せらるゝもその事實の何たるを解すること能はざるを以て、字句の一部をも忘却することあるときは、遂にその全部を寫し出すこと能はざるなり。

かくの如き豫習をなすの危險は實に名狀す可からず。若し問題にして教科書字句の通りに答案を要求するものなるときは、或は效を奏して滿點を得るの名譽を博することあらん。然れども會、字句の一部を忘却

するとき、は遂に何等の答をなす能はざるは勿論、若し問題にして教科書字句通りに適中するものにあらずして、或は多少の變化を要するものたり、或は數ヶ所より書き集むるものたり、或は非常に大なる問題たりするときは、諳記的豫習法の全然失敗に歸するは火を睹るよりも明なりとす。

諳記的方法のみならず事實を充分了解せずして記憶したるもの、或は一時に數多の事實を腦裏に注入したるものは極めて忘却し易きものなり。余輩嘗て時期を定めて試業を施し、翌日課業の際引續きて同一箇所につきて口答試問を施し、其の結果如何を考察したるに定時筆答試驗の成績頗る佳良なりしに反し、口答試驗の成績の憐むべきものありしに驚けり。これこの原因全く短時日の間に許多の事實を注入し試濟みて安心したると共に全く其の事實を天外に飛散したるに外ならざるなり。故に余は急速短時間に歷史を豫習するを堅く戒むるものなり。勞して功なきのみならず、屢、これによりて疾病を招くことあり。豈不經濟の至ならずや。

第二に歷史を豫習するに當り書物を幾度となく反覆默讀することれなり。これ事理に通ぜずして徒に讀修するものにして、所謂蛙鳴蟬躁に外ならず、遂に文句諳誦を極點とするに止まり、其以上に得る所一も存することなし。一小敎科書ならば韋編三たび絕つも或は可ならん、若しそれ大冊に遭遇せば如何そこれを再三復讀する遑あらん。

●記憶の良法

余が歷史を記憶するの最も便法とする所は記憶それ自身を努むるにあらずして、よく事實の眞相を了解するにあり。事實を了解するを得ば、

おのづから事實を記憶し得らるゝなり。左に順序を逐ふて之を說かん。

一、歷史を讀むに當り先づこの事實を考査するは最初にして最後たるの覺悟なかる可からず、之を再び讀み得るといふ考を有するときは研究に粗漏なるを免れず、從て事理了解に悉さゝる所あるを以て從て腦裏に印象すること難からざるなり。

二、一事實に遭遇せば心靜によくこれを熟讀し、如何なる源因により て起りたるか、事實の眞相は如何、如何なる結果を生ぜしか、史上如何なる位置にあるかを研究せよ。事理明瞭に了解せられ、記憶に存することよ、地名を記憶すると事實を明にするとに便ならん。

三、人名を見ばその人の時代、その生國、その事業、性行等に注意して忘る可からず、地名を見ばその何處にあるかを一々地圖に照して熟視せ

四、事實の研究は數頁同時になすべからず、必ず一事實づつを專心研究し、時日を費す永きに過ぐるを思ふ可からず、數回復讀の時間を略し得るが故に、敢て怖るゝに足らざるなり。一事實を精讀し、專心それ丈の事實を了解するをつとむ可し。

五、一事實を精讀し了したるときは書を閉ぢ目を閉ぢてこれを復習せよ。一事實の明了に言ひ得るに至て止めよ。

六、心中に於て事實を搜ぐるに至らば自から問を發して自から答へよ、この事實は何時ありしか、何人が起せしか、何處に起りしか、如何なる事情によりて起りしか、事實已に起るに及び如何に進行せしか、何故然るか、如何に落著せしか、等の問を爲し、自から之を答へよ。答へ得ざるときは書について之を質すべし。書答ふること能はざるときは師につき之を聞く可し。

七、かく自問自答によりて事理愈明瞭となり、充分了解せられたるを以て、こゝにその要點を口附として書の上方に記入すべし。重要なる文句は圈點を附し、他日一讀せざるもその頁を一見せば無限の感覺の起る樣爲し置く可し。

八、かく一事實を了解したる後、次の事頁研究に取りかゝり同一の方法によりて事理の了解に力む可し。

九、かくの如くして一篇を習得し、一大圍を終るときは、一應前後の關係を精査熟視し、時には表を製り置くも妙ならんか。

如斯して事實を精査し眞相を了得するにつとめなば、その知識明瞭にして久しく記憶に存することを保證するものなり。

●復習の一例

今試に諸子が最も困難とするフランス革命の復習方を記述せんとす。フランス革命は第一に何年に始まり何年に終れるかを見よ。一七八九年に始まり一八一五年に終れるを見ん。その源因は如何。フランスの財政の困難、貴族僧侶の專横、フランス文學の主張、アメリカ合衆國の獨立、ルイ十六世政治の失敗はその源因なるを發見せん、諸子は一々書に照さば各頁の事實を詳に了解するを得ん。

財政困難は如何にして救濟せらるべきかネッケルの議會召集案は唯一の方法たりしなり。

その結果如何。貴族僧侶の專横を惡める平民は自から立ちて國民議會を開き、憲法を定め、大改革に從事せり。その結果は國王の恐怖となり、ネッケルの免職となり、バスチル牢獄破壞となり、護國兵承認となれり。

大改革は實行せられたり、貴族僧侶は東走せり、王は援助を失ひ、憲法案

を裁可せり。

この貴族の東走は外オーストリア援助の結果を生じ、この憲法の裁可は立法議會共和黨の選出を見るに至れり。

オーストリア援助の功如何、その無功なりし理由如何。ジロンド黨等の黨爭は外交等によりて遂に國民集會の開會を促せり。

國民集會の過激黨は王政を廢せり、王を弑せり。

弑虐の反應は列國同盟の反對を招けり。

フランスは如何にして之に抗せしか、內は公安委員を擧げて政務を治め、外には壯丁を募りて反抗せしめたり。

公安委員は黨爭と秩序破壞とを來せり。その狀況如何。壯丁の大運動は成效せり。列國聯合の失敗したる理由如何。秩序紊亂の結果は恐怖心を起して理事政府を起し、戰勝の結果は聯合を分裂せしめ、イギリスとオーストリアとを除きて他は皆和睦せしめたり。

イギリスとオーストリアとは何故反抗せしか。

ナポレオンはオーストリアに對し、イタリアに戰勝を得、イギリスに對してはエジプト征討に敗れたり。

敵將ナポレオンの敗衂は歐洲の大聯合を再び起さしめたり。之に對してナポレオンは統領政治を建てゝ內を鞏固にし、外オーストリアを破れり。同盟軍不利の理由如何。如何なる平和を結びたるか。

平和成るの後、ナポレオンは國內の秩序恢復に努めたり。然るに皇帝卽位の後、イギリス、オーストリアの反抗を起したる理由如何。(源因は平和の相互に誠意なきに由る)ナポレオンはオーストリアに對してはアウステルリッツの戰により、ライン同盟を起して獨逸帝國を滅亡せしめ、イギリスに對してトラファルガーの戰に敗れたり。

戰敗の結果はナポレオンをして海戰の不可能を認め、大陸同盟の要を感ぜしめたり。これによりて仲立せるプロシアを討ち、イギリスと通ぜるポルトガルを滅し、イスパニアを略せり。

ピリニース半島はなはナポレオンに反對せり。オーストリアはその反對の成功を見て愛國心の致す所なりとし、遂に反抗の意を固め、再び破られてまた起つ能はず、マリア・ルイザをナポレオンに嫁せしめ、僅に哀を求めたり。

この結婚と大陸同盟の不利とはロシアを起たしめたり。ナポレオンはこの役に敗れたり。その理由如何。

ナポレオン敗衂はまた大聯合を起したり。ナポレオンはエルバに流されたり。

秩序恢復の目的を以てウィエナ會議は開かれたり。同會議に於けるボーランド紛擾問題は列國の協商を困難ならしめ、遂にナポレオンをして再び奮起せしめたり。會議は自餘の諸問題を一瀉千里の勢を以て決議し、表面上諸紛議を縫縫し、以てナポレオンに向へり。

ウォタールーの一戰ナポレオン戰全く敗れ、遂にセントヘレナの一孤島に流竄せられ、第二巴里條約によりて僅に結末を見るに至れり。

ウィエナ會議の縫縫的決議は實に後世列國の間に自由統一の諸問題を惹起するの因となれり。

フランス革命は實に紛糾を究め、一般讀者をして了解に苦ましむるものなり。されども研究の方法右の如く進行せば、源因結果の聯鎖により漸次氷解するに至るを得べく、勞渺なくして功多しとす。徒に事實の混雜せるに驚きて字句を諳するが如きは却て效なきものの如し。諸子以て如何となす。

第二章　重要事實の鑑別法

●事實輕重鑑別の要

歷史の事實は實に廣大無邊にして到底人力のこれを精査しこれを了解記憶すべからざるが如し。然れども退て考ふるに歷史の事實には自から重要なるものと重要にあらざるものとあり。故にこれを鑑別して重要なるもののみを知るを得ば足れりとす。

歷史は人爲の記錄なりといふ。然りと雖も吾人が日常に於ける起居動作は皆悉く史的事實にあらず。史的事實とはこれによりて大に世道を益し社會一般に多少の影響を及ぼすものたらざる可からず。その影響の多少が卽ち史的事實の輕重を生ずるの要素なりとす。

第一章に說ける事實研究の法により、よく事理を明晰にし、然る後その影響如何。その位置如何を考察せば、事實の輕重は自から知り得べきなり。

敎科書は重要なる史的事實を略述せるものなり。故にこれ等の事實は須らく精査了解するの必要ある可し。然れども若し諸子その中就れが更に最も重要なる事實なりやと問はゞ、余はこゝに二三注意すべき鑑別の法を言ひてその責を免れんとす。

●鑑別に關する諸要素

第一に注意すべきは時代の變化を促せる重要事件に注意すべし。假令ばアメリカの發見、宗敎改革の發端の如き、フランス革命の如き、よく一時を警動し、これによりて世の傾向に一大進歩を與へたるものなり。これ等は最も注意を要するものなりとす。

二に各時代を代表すべき事實に注意せよ。十字軍の如きは實にローマ法王の全盛時代にして、キリスト教主義が如何にヨーロッパを動かしたるを知るに足らん。また第二ピューニック戰爭は如何にローマが世界統一につとめたるかを知るに足らん。

第三に偉大の發明發見に注目せよ。活版の發明が如何に人道派學の發展を促したるか、コルベーの經濟學說が如何に各國の主義を動かせしか、汽車汽船の發明が如何に交通・貿易・政治・經濟等に裨益せしか、須らく注意すべきの事實たらざる可からず。

第四に偉大の人物に注意せよ。偉大の人物はよく一世を動かすの力を有す。プレデリック大王の如き、ナポレオン一世の如き、よく世界治亂文物に著しき關係を有するものなり。これまた注意の價値ある可し。

第五に重要なる二三の媾和。たとへば一六四八年のウェストファリア條約、一八一五年のウィエナ條約、一八七八年のベルリン條約の如きは、後世永く各種の事件を處置するの標準條件たり。特に注意を要するなり。

第六に歷史上事實の要不要は學術的にいへば時代の前後によりて輕重あるべからざるの理なれども、教育上には古を疎にし近世に進むるに從ひ漸く密なるを要するが故に試業に應ぜんには比較的近世、特に第十六世紀以後に注意するを要するなり。

第七に凡そ國史はその國の興敗消長に關する事件を精査すると同時に、またその國が外國に對し如何なる位置にあるかを研究するを要するなり。故に國史に於て我國の事實を審にすると同時に、國史の外國史に關するが如きはまた特に注意を要するものたる可し。耶蘇教オランダの東洋經營等實にこれに屬す。

右に列擧したる注意條件は庶幾くは鑑別を適切ならしむる要素なら

んか。

●西洋大勢の推移

今試に史的事實の輕重の鑑別を容易ならしめんが爲め西洋諸國が如何なる變遷興敗を爲したるかの梗概を述ぶべし。諸子はこれによりてこの事實の明瞭に腦中に畫かるゝを期し。これによりて事實の輕重を了得せん事を望む。

アフリカ洲の東北端ナィル河邊にエジプト國起り、族制を創立し、ピラミッド等偉大の建築を建設し、大古の文明國と稱す。地中海東岸のヘブリゥ人はユダヤ敎を創立し、フェニキア人は航海業を創め、文字を製し、相互の交通盛なりけるに、第九世頃より東方チグリス河畔に起りて軍神崇拜を以て著名なるアッシリア人に滅亡せられたり

アッシリア滅亡の後はエジプト、バビロニア等の諸國起りて互に相爭ひけるが、就中バビロニアは文化を盛にして他國を壓倒せんとする勢ありしに、この時東方にペルシャ國起り、オルマッヅの神を戴き、よく諸國を併呑して西アジアを領有し、世界統一の大業を爲せり。

是に於て西に勃興せるギリシアは勢危かりしに、自由を貴べるアテネ、武勇を尙べるスパルタは、協同してこれを防禦し、よく勁敵を破り、ギリシアの文化を盛にせり。然るにギリシア內に幷立せる諸邦は互に相嫉視し、遂にペルシアとともにマケドニア王アレキサンドル大王に滅ぼされたり。大王は中外の文物を融合して大統一を計畫せしが、功竣らずして歿し、國は忽ち分裂し東方は獨立し、西方は皆新興のローマに歿されたり。

ローマ已にカルタゴを滅し、西アジアを領し、紛々擾々の間ケーザル幷

にオクタビアヌスによりて統一せられ、ローマ固有の文化を興せり。然るに國土廣大に失して政綱宜しからず、國運日に衰へて遂に蠻人に乘ぜらるゝに至りぬ。

匈奴、ドイツの侵入に際し、西ローマ已に滅びて西方秩序を失へり。キリスト敎はこの間に人心を收攬し、東方にはジャスチニアン帝法典の編成を爲し、ローマの文化を維持するに汲々たりしが、イスラム敎の起るに及び、遂に南北兩敎國の對立を見るに至れり。

西部ヨーロッパのキリスト敎はローマ法王を戴き、シャーレマヌと同盟して强大を致してこれに當り、封建制度を確立し、遂に帝王以上の大權を振ひ、十字軍を起して、トルコのイスラム敎徒を破り、東方に崛起せる蒙古と交を通ぜり。マルコポロ等の東遊せしはこの時なり。

十字軍の敗は封建制度の傾衰を促し、新知識の勃興を致し、帝王は法王の壓抑を脫して新制度を起し、貴族義騎の兵を廢して常備軍を組織せり。チムール幷にトルコの勃興は東ローマの滅亡を招きしも、之に對して新航路の發見を重要視せしめ、遂にアメリカ大陸の發見、及び印度の航路を發見するを得、ヨッロッパの天地は東西に擴がれり。

宗敎の改治上に於ける關渉は已に去りたるも、その弊害はなほ盛なりしかば、宗敎改革の運動は創めてルーテルの口より出で、ツウィングリ、カルビン等續出し、遂に新敎を樹立するに至り、舊敎は會議を開き、耶蘇敎社を創立し、宗敎吟味を再興して之に當れり。而して他方には國力平均の問題起り、カロロ五世、フェリポ二世の强力に對する戰爭起り。遂にイギリス王エリザヘタの必勝艦隊討滅により、イギリスの海上權を定め、文物を興し、オランダの獨立を助成し、遙に東西兩洋に覇權を振ふの端を開けり。

然るにドイツにける政教上の情態は再び第十七世紀に三十年戰爭の大亂を招き、國運衰頽せしも、フランスはこの時已にリセリューの力によりて專制強大の基礎を定め、イギリスは憲法の紛議を了して專制の害を除きたり。

第十七世紀の後半期後は保護貿易の主義、フランスのコルベーの力によりて興る、ルイ十四世は近傍諸國を蠶食して今や將にイスパニアを幷呑せんとす。イギリスはこの時改革を遂行して立憲自由を確立してこれと爭ひ、遂にイスパニア王位相續問題により、十三年の戰爭を試みたり。ロシアのペーテル大帝また國運を開くの目的を以て二十一年間スウィーデンと爭ひ、ついでプロシア王フレデリキ大王オーストリア相續の問題により八年間シレシアを爭ひ、ついで七年間ヨーロッパ、アジア、アメリカに大戰を見るに至りぬ。

かく土地侵略の戰爭は各國の財政を紊亂し、イギリスまづ窮して遂にアメリカの獨立を見るに至り、フランスついで大革命を起せり。

大革命はフランスの秩序を破壞してヨーロッパに獨立自由平等を主張したりしを以て、列國は自營上之に反抗し、遂にナポレオンをして漸次偉大の事業を爲さしめたり。ドイツ帝國はこれが爲めに滅亡したるも、トラファルガーの海戰はナポレオンをして大陸同盟の必要を認めしめ、從てプロシア、ホルトガル、イスパニア、オーストリア征討となり、遂にロシア戰役の失敗となりぬ。

是に於て列國協同してナポレオンをエルバに流し、ウィエナ會議を開きて亂後の處置を議せしも、ナポレオンの再興は會議をして審議の餘暇を得しめず、ウォータールーの一戰、ナポレオンをセントヘレナに竄せしも、殘るは反古同樣のウィエナ會議の決議のみ。

神聖同盟はメッテルニヒによりて專制保守僅に繃縫を事とせしめ、列國に於ける紛擾は遂に之を定むるを得ず、イギリス之に乘じて己が利を計り、モンロー主義と相待てアメリカ殖民地まづ獨立し、ギリシアの獨立と共に神聖同盟遂に破滅せり。

されば其七月革命起るに及び、ベルギーまづ獨立し、その餘波ひいて列國に及び、ついで二月革命起るに及び、ドイツには自由統一の運動起り、サルヂニアも自らイタリア統一の問題を起すに至れり。ロシアがクリーミヤ戰爭を起すに及び、サルヂニアはイギリス、フランスを援助し、その報酬として遂に殆どイタリア統一の大半を成功せり。プロシアのビスマークまた鋭意果斷以てオーストリアをドイツより排斥し、ついでフランスと戰を開きその結果遂にドイツ統一の大業を成せり。

ドイツかく統一するに及び、ロシアもまたスラヴ人統一を計畫し、トルコと戰を開きたり。然れどもビスマークの遠謀畫策によりてその目的を達すること能はず、遂に二國同盟三國聯合を組織し、以て國力平均を謀れり。獨りイギリスは孤立して名譽ある中立を維持し來りしが、トランスバールの役及び米西の役にアメリカと親交を結び、北淸事變の後は日本と攻守同盟を結び、以て強露の南下を壓止せんことを計るの今日となれり。

●重要なる練習諸問題

余は事實の輕重鑑別が受驗成否の岐るゝ所ならんを信じ、更に重要なる問題を諸子に提供すべし、諸子自から答を爲せ、若明瞭なる解答を得ずんば余が著書受驗叢書西洋史を見よ。

第一　上古の部

エジプトの建築如何
エジプトの族制とインドの族制の別如何
ユダヤ教の淵源如何
フェニキア人の偉業を問ふ
アッシリアの特性及びその最大版圖を問ふ
バビロニアの文化如何
ペルシアの宗教如何
ペルシアの領土及び制度如何
スパルタの制度を問ふ
ソロンの法を問ふ
僭主政治と民主政治とは何ぞ
民主政治と共和政治との區別如何

サラミスの戰を記せ
ギリシア美術の特性如何
ギリシアの宗教如何
ペリクレスの事業を擧げよ
ソクラテス、プラトー、アリストトルは如何なる人か
アレクサンドル大王の事業を問ふ
デモステネス、キケロは何を以て有名なるか
アレクサンドリアの文化を問ふ
護民官とは何ぞ
十二銅表とは何ぞ
第二ポエニ戰を記せ
ローマの宗教を問ふ

ケーザルの偉業を問ふ
オーガスタスの事業を問ふ
ローマの建築について述べよ
キリスト教の起源如何
キリスト教の國教たる始末如何
コンスタンチン大帝の事業を擧げよ

第二　中古の部

蠻人のローマに侵入せしは如何なる事情によるか
西ローマ滅亡の始末如何
ジャスチニアン帝の偉業を擧げよ
イスラム教勃興の始末如何
サラケン文化を問ふ

シャーレマーヌ帝の事業を問ふ
ヨーロッパ封建制度を記せよ
神聖ローマ皇帝とは何ぞ
ノルマン征服とは何ぞ
法王グレゴリオ七世の事業を問ふ
十字軍の源因と結果とを擧げよ
義騎とは何ぞその利害を述べよ
イギリスに立憲政治の起れる始末を問ふ
法王イノケント三世は何を以て有名なるか

第三　近世の部

人道派學とは何ぞ
美術の復興とは何ぞ
活版術の發明は如何

ナムールの事業を問ふ
東ローマは如何にして滅亡せしか
アメリカ發見の始末如何
マルコポロは如何なる人か

第三　近古史の部

ドイツ帝カロロ五世は如何なる勢力を有せしか
マーチンルーテルは何故宗教改革論を唱へしか
如何なる場合に新教は起りしか
耶蘇教社の組織及び事業如何
オーグスブルグ宗教媾和とは何ぞ
イギリス王エリザベタの事業
オランダ獨立の由來如何

必勝艦隊の役を述べよ
イギリス第一革命の源因如何
セントバルトロミューの虐殺とは何ぞ
ナント條例とは何ぞ
イスパニア王フィリポ二世の事業を問ふ
リセリューの事蹟を問ふ
マザリンの事業を問ふ
三十年戰爭の源因を問ふ
ウァーレンスタインの事蹟を問ふ
グスタフアドルフは何を爲しゝか
ウェストファリア條約とは何ぞ
クロムウェルの事蹟を問ふ

イギリスの革命を述べよ
ユ・ニオンジャックは何ぞ
コルベーは何を以て有名なるか
ルイ十四世の事業如何
イスパニア王位相續亂の源因を問ふ
ウトレヒト條約とは何ぞ
ペーテル大帝の偉業を述べよ
七年戰役を述べよ
フレデリック大王の偉業を問ふ
合衆國獨立の起因如何
ワシントンの事業を問ふ
ポーランド分割の因如何

クライヴ、シェークスピーア、ベーコンは何を以て有名なるか

第四　近世史の部

フランス革命の源因如何
理事政府とは何ぞ
ナポレオンの事蹟を問ふ
武裝中立同盟とは何ぞ
トラファルガルの海戰を記せ
ネルソンの事蹟を問ふ
神聖ローマ帝國の滅亡したる所以如何
大陸同盟ベルリン宣言とは何ぞ
ナポレオンの最大勢力を述べよ
ロシヤ征討の役を述べよ

ウィエナ會議は如何なる會議なりしか
ウォータールーの戰を敍せよ
カント、ゲーテは何を以て有名なるか
神聖同盟は如何なるものなるか
メッテルニヒの事業を問ふ
モンロー主義とは何ぞ
ギリシア獨立の顚末を擧げよ
神聖同盟は如何にして破滅せしか
ナバリノの海戰は如何
七月革命を述べよ
ベルギー獨立の始末を問ふ
イギリス選擧法改正とは何ぞ　腐敗選擧區とは何ぞ

二月革命を記せよ
關稅同盟とは何ぞ
クリム戰役を略述せよ
パリの中立條規の宣言とは何ぞ
カブールの事業を問ふ
ガリバルヂは如何なる事を爲ししか
ビクトル・エマニエル二世の事業を問ふ
ソルフェリノの戰とは如何
南北戰爭の源因とは何ぞ
鴉牙戰爭とは何ぞ
イギリス、フランスの北淸征伐事件とは何ぞ
シュレスウィク、ホルスタイン問題とは何ぞ

サドバの戰とは何ぞ
普佛戰爭の源因如何
チエールの事業如何
ビスマークの事業如何
ドイツ帝國は如何にして組織せられしか
露土戰爭を述べよ
ベルリン條約とは何ぞ
清佛事件とは何ぞ
二國聯合三國同盟とは何ぞ
スエス運河は如何にして開鑿せられしか
赤十字社は何時如何にして組織せられしか
ヘーグ會議とは何ぞ

北　變とは何ぞ
米　戰爭を記せよ

以上は注目すべき事項の大略にして、苟も西洋史を繙けるものの了解すべき條項の最少限を示せるものなり

第三章　受驗者の心得

●受驗の準備

試業の時日確定するの時は數日前より若干時づつ第一章の方法によりて學びたる書籍を一覽し、目を閉ぢてその何々の事實なるかを想ひて卷末まで復習すべし。

重要なる人名、地名、年號にして記憶し難きものは別に紙に筆記するか或は書物に著しく記號を附して忘れざらんことを勉む可し。

若し地名人名にしてこれに關する事實を想起すること能はざるときは、索引によりて之を探るべし。こゝに於て索引の必要を感ずるなり。從來わが邦の史籍には索引あらず、これ著書の一大缺點にして、著者の用意周到ならざるものなり。索引なきが故に、大部の書も盲探しを爲さざる可からず。第二十世紀の繁忙なる時期にして、豈かゝる餘裕あらんや。故に書は索引あるものを選ぶを要す。學校に於て用ゐ慣れたる書物は特別なれども若しかくの如き書なければまつ索引ある書なきやに注意するを緊要なりとす。

●年號の記憶の良法

年號を記憶するは事實の前後關係を見るに重要なるものにして、しかも記憶するに最も困難なるものなり。この方法如何については余自から

ら思を焦したる所にして、如何なる方法が最も適切なるやは余今これを斷言すること難しとす。或は事實の東西兩洋比較により、或はその事業との聯想により、種々の方法を案出し、これを實際に施したるに、その功殆んど見るべきなし。年號記憶の法元より右の比較並に聯想によらざるべからざるの理なれども、余が今日まで實行し來れるものにして良法とする所は左の如し。

まづ事實の最も重大なるものを選びて必ず之を記憶する事と定め、他は事實の連絡上大凡の時代を考へしむるの方にして、その標準年號とすべきは西洋史に凡そ三十二あり。左に之を示さん。

前	七七六	周	ギリシアノ建國
	六〇六	神武	
	五五五	周宣王	アッシリアの滅亡
	四八〇	懿德	
	三一一	周敬王	サラミスの戰

三二三	孝安	六二
二一八	孝靈	七三
四四	崇神	五四
二七	垂仁	三
後		
三七六	仁德	六四
四七六	雄略	二〇
六二二	推古	三〇
八〇〇	桓武	延曆一九
九六二	村上	應和二
一〇七七	白河	承曆七
一〇九六	堀河	永長元
一二一五	順德	建保三

一四五三	稱光	慶永二一
一四九二	後土御門明石元	
一五一七	後柏原永正一四	
一五五五	後奈良	弘治元
一五八八	後陽成天正一六	
一六四八	後光明	慶安元
一六八八	東山	元祿元
一七一三	中御門	正德三
一七六三	後櫻町寶曆一三	
一七八九	光格	寬政元
一八一五	光格	享和一二
一八三〇	仁孝	天保元

東周顯王	アレクサンドル歿
秦始皇	第二ボエニ戰起る
漢元帝	ケーザル歿
漢成帝	ローマ帝國となる、
東晉武帝	ドイツ人初めてローマに入る
宋後廢帝	西ローマ滅ぶ
唐高祖	イスラム敎起る
唐德宗	シャーレマーヌ皇帝となる
唐恭宗	神聖ローマ帝國成る
宋神宗	クレゴリオ七世法權を確定す
宋哲宗	第一十字年起る
南宋寧宗	イギリス大憲章成る
明景宗	東ローマ帝國亡ぶ
明孝宗	百年戰爭終
明武宗	アメリカ發見
明世宗	ルーテル宗敎改革論を唱ふ
明神宗	オーグスブルグ宗敎媾和
明永明王	無敵艦の戰
清聖祖	ウェストファリア條約
清聖祖	英國革命成る ウトレヒト條約成る イスパニア王位相續戰爭終
清高宗	パリー條約成 七年戰爭終
清高宗	フランス革命起
清仁宗	ウオータールーの戰
清宣宗	ウイエナ會議 七月革命起

一八四八　孝明　嘉永元　清宣宗　二月革命起
一八五六　孝明　安政三　清文宗　パリー條約成　クリム戰爭終
一八七一　今上　明治四　清穆宗　普佛の役平ぐ
一八七八　今上、明治一一　清光緒　ベルリン會議成る
一八九五　今上　明治二八　清光緒　馬關條約成る

右の年號は西洋史上重要事件の起れるときにして、記憶上標準の年號とするに足る。諸子はこれを行住坐臥毎に目に觸るゝ場所に書き置き、之れを明に諳記すべし。西洋興敗の順序はこれによりて明なるを得べけん。(次章參看)

●前夜の注意

かくして著々準備を了し、必ず期日の前々夜を以て完了とす可し。前夜深更まで或は徹夜復習し、甚しきは試業前なほ書を見るものあり、かくの如きは失敗に終る所以にして、折角明瞭に了得したるものを紛擾せしめ、愈試驗場に臨むに及で忽ち思想混亂して、五里霧中に彷徨するの思あらしむ。故に鄭重の復習は前々夜に限り、前夜に至り第一章に說きたる口言符號を一覽し、運は天にありと考へ、書を閉ぢ、再び書を開く可からず。寧ろ早く褥につくを要す。就眠充分にして意氣昂然たるの時、明瞭に會得せる知識は整然として胸中に沸き出で、容易に解答を爲すを得べけん。

●歷史問答等の使用

受驗前の心得につきこゝに一の注意すべきものあり。歷史問答又は受驗叢書の朗讀これなり、簡單に準備せんが爲めこれ等の書類を最初よ

り繙けるは寸毫の效なしとす。何となれば受驗叢書又は歷史問答なるものは事實の連絡なきが故なり。歷史を了得するは源因結果の聯鎖によりて容易ならしむるものなり。然るにこの聯鎖を忘却するときは恰も事理を解せずして法律の條項を諳んずるに等し。普通凡人の得て容易く成效するものにあらず。たとひ諳じ得たりとするも、前後の關係なく、事理の明解なく、眞に歷史の何たるを知る能はざらしむ。

受驗叢書歷史問答の類は一旦充分に了解したる後、未だ研究せざる所なきや、又はある問題につき如何に解釋して然る可きやを確めんが爲めに繙くを可とす。坊間に行はるゝ問答必携の類は多く事實の輕重を察せず、繁簡抄略宜を失ひ、却て學生の頭腦を混雜せしむるの憂あり。且夫これ等の書はその形小にして紙數また少きも、その字形の小にして字數の多きを察せば敎科書を繙くとその勞幾何の軒輊あらんや。故に曰く杜撰の必携叢書問答の類は讀まざるを可とすと。若し夫れ之を讀みて補助益友たらしめんと欲せば、須く識者に問ひ、可成專門家の口に手に成れるものを採擇すべきなり。

●索引の應用

なほ一の注意すべき事項は近頃歷史問題中に地名人名を出すこと多し、かくの如き問題は抑も專門家を試驗するに用うる問題にして、歷史は傳記學にもあらず、また地理學にもあらざれば、中等敎育にありては特に著しき人名地名の外は問題に出さゞるを法とす。されども實際かくの如き不法の問題の提示ある世の中なれば、受驗者はまた之に應ずるの覺悟なかる可からず。されどもかくの如き準備は最も難事に屬し、一々之を帳記するも頗る繁雜の嫌なき能はず。惟ふに之に應ずるの策

は書籍を一度讀み了りたる後、巻末にある索引につきその文字を問題とし、自問自答、その解し難き所あればその所に附記したる頁數を開き見るを可とすべし。殊に地名ありたるときは必ず地圖を見置くべし。索引の必要便宜こゝに於て明なり。故に自修者は必ず索引あるの著書を見るを可とす。

第四章　試驗場の心得

●諸注意

試驗場に入りたるときは指定の通り姓名等を第一に記入す可し、受驗生往々狼狽して記入を遺忘して失敗を招くことあり、注意すべし。

試驗場に入るときは往々周章狼狽し、心悸亢進し、手顫ひ足慄き、考へ得べきものも考ふること能はず、耳熱し汗出でて、遂に思想の半ばを表明すること能はざるもの多し。既に前夜運を天に任せたるもの、焉ぞかくの如きことあるべけんや。須らく泰然自若として勉めて愼重の態度を執るべきなり。

問題提示しあるや直に筆を執るもの多し。これ既に狼狽したるの證とすべし、大なる非なり。凡そ試驗問題は試驗官自から執筆解答する場合には所定の時間の半以下にて足るものたるを通則とす。故に直に筆を執りて時間の足らざるを憂ふるの要なし。且それ直に筆を執りて己の知れる全部を解答せんとするときは、遂に全問題の解答を記するの時間を得ること能はざるに至るべし。

答案に述ぶる所は問題の問へる範圍を明瞭に記入すれば可なりとす。故にその前後に關聯せる數多の事實を記入するは徒に時間を費し勞力を失ふものたり。而もこの不必要なる部分に誤謬の存するときは、却

て成績の幾分を失ふの作用を爲し、結局勞して功なきの不經濟的勞働たるに止まるなり。深く戒しむ可し。

歷史の解答は要求せる全問題に對するものたる可し。說くもの或は曰く、數問題の中二三の問題完全無缺なるときは他は答へざるも可なりと。然れどもこれ思はざるの甚しきものにして、如何に二三問題の完全なりとするも他の問題に解答なきときは受驗者は毫末もその問題を知らざるものと推定するより外に途なきものとす。

故に問題提示後第一に爲すべきはまづ全問題が如何なる事を問へるかを熟考せよ、問題の誤解は深く戒むべきことなり。問題の意味を會得するときは各問題の論及すべき範圍を限定し、然る後腦中にほゞ解答を作り、而して前後に對し時間の長短に鑑み、繁簡省略宜きを得、然る後筆を執りて解答せよ。この考慮につき總時間の四分の一乃至六分の一を費して可なり。

●解答法の諸例

今例を擧げて解し難き二三問題につき說明せん。

(一) 第十八世紀に於てイギリスの得たる領土如何

(二) 第十八世紀に於てフランスの失ひし領土如何

右の二問題を考察せよ。第十八世紀に於て戰ひたるはヨーロッパ各國なりと雖、イギリスとフランスは最も重大なる位置を採りたり。故にまづ第一の問題に於てイギリスは如何なる戰を爲しゝか、而して如何なる條約を爲しゝかを考察し、イギリスは如何なる所を各國より得たるかを考へ、然る後に別紙に假に之を列擧すべし。事實上に於てイギリスの得たる土地の多くはフランスより領得したるものなり。然れどもフラ

ンスの失ひたる所の土地イギリスの得たる土地なりと解し、第一問と第二問と同一視するは大早計なりとす。フランスの失ひたる領土はオーストリアイスパニアにも奪はれたればなり。

(三) フランス革命の源因如何

この問題については革命を起したる源因と、これを實際に起したる導火線と、二者を考へざる可からず。而して革命の大源因となれるのは一にフランス財政困難、二にフランス文學の民權自由平等の鼓吹、三にアメリカ合衆國の獨立四にルイ十四世の柔弱、而してその導火線はネッケルの國會召集、國民議會の開會、暴民の紛擾とこれなり。第一は何々、第二は如何と、よく簡單にその特色を考へ、然る後これを綜合して、或は第一、第二と列擧するも可なり。或は文章に綴續するも可なり。以てバスチル牢獄の破壞に至る可し。これより後に續出する事實幷に結果を記するの要なし。

(四) ワーレンスタインは如何なる人か

かくの如き問題については、ワーレンスタインの起りし時代、卽ち三十年戰の有樣を一言して、氏の事業の最も著大なる一二件を略述し、歷史を讀まざるもののその人の如何なる風の人なるかを了解せしむるを以て足れりとす。かくの如き問題に於ては毎に問はれたる人を全答案の主人とし、グスタフアドルフもチリーも皆客として記すことを要す。主客轉倒したる文章にては意義通じ難し。よく注意すべし。

(五) クリム戰爭を記せ

かくの如き問題にありては、源因の主要なるもの、交戰に加はれる國、重要なる戰鬪、勝敗條約とに注意し、戰爭の詳細を記するの要なし。卽ちロシア帝のトルコに對する希望イギリス、フランスのトルコ援助、サルジ

ニアの應援、セバストポールの陷落、パリ條約を略記すれば足れりとす。

(六) サラミスについて知る所を記せ。

かく地名にて問はれたるときはその位置幷に其處に起りし最重要なる事實を記せば足る。卽ちギリシアのアッチカの西にありて、紀元前四八〇年アテネの將テミストクレスがペルシアの水軍を敗りし處なりと記せば足る。

(七) 十二銅表とは何ぞ

かくの如き物の名、又は條約の名、法律の名、等を問はれたるときは、何年、何處に、何人が編成せる、又は訂結せるものにして、何々の目的を以て何を規定せるものなりと記し、その源因事情作成の有樣結果等を記するの要なしとす。

かくの如く答案は問題に適合すること恰も銃丸の標的に命中するが如くなる可し、往々答案曖昧にして一の答案を考ふればこれによりて數ヶ問題を製し得べくして、そのいづれの問題にも相當と考へられ得べきものあり。かくの如き答案は適當なるものにあらず。これ問題の意味を明瞭に解せざると、問題の範圍限定の不足なると、行文主客混合して秩序整はざる等の源因によるなり。よく注意すべし。

●書方の注意

かく問題の批判分析限定等の考慮を費さずして知れるが儘直に筆を執れる時は、諸所に添刪の必要も生ずべく、或は遺忘を生ずべく、諸處に○□△等の符號を用ゐ、或は數行を刪除するの要生じ、答案の不秩序亂雜を見るに至る可し。これ甚見苦しくして、筆者の學力の缺乏を表示するものと認定せらるゝものにして、非常なる損失を招くものとす。是に

反し答案丁寧に淨書せられ字格整然たるときは試驗官は之を見るに易くして、僅小の瑕瑾はこれによりて隱蔽せらるゝこと往々ありとす。力むべきは答案の淨書にありとす、加之答案中に往々略字を使用するものあり、略字は日進文運に向へる際なれば、あながち之を禁ずるに非ず。日常略字として一般に承認せらるゝものは却て之を用うるを可とす。然れども普通用ゐざるものは使用するを避くべし。假令ば歷を厂に國を口に作るが如き甚見苦しとす。

文字を勝手にあてじを以て書すること宜からず。學力の不足を表明するものなり。戒むべし權利と書し、腰を芝々と書して大笑を受けたるものあり。

●歷史學上三大要素の注意

答案を認むるに當りて必ず念頭に存ずべきもの三あり。曰く何時か、何人か、何處に於てか、是れなり。この三者は歷史の答案には必ず明記を要するものなり。若三者にしてその一を缺けば答案の價値三分の一を失ふのみならず、時に全部を失ふことあり。嘗て高等學校入學試驗問題にホーマーは如何なる人なるかといふ問題あり。受驗者中に

ホーマーは詩人なり

ホーマーはギリシアの詩人なり

ホーマーはギリシア古代の詩人なり

の答案あり。ホーマーは詩人なりとの答に對しては三要素の二を損じ、零點なり。第二の答には一を損じ五十點を算し、第三案は三者を具備す故に滿點なりといひあへるよし。然るべきことならん。

モンロー主義とは何ぞ

といふ問の如きに至りては、三要素に注意せずしてその主義のみを述ぶるもの多し。大なる過なり、モンロー主義とは第十九世期の上半期頃アメリカ合衆國大統領モンローが宣言したるものにして云々と答へざれば、如何に明瞭に主義理由を解くも價値は半分以下にあるべし。受驗者の失敗は多くこの點に存す。注意すべし。

歷史は時代關係を最も重要とす、されば如何なる事柄にも年號を明記すべし、年號記憶の困難なることは前已に之を說けり。諸子は余が前章に揭げたる年號を必ず、明に諳せよ。他は事實の關係上より推側するを得べし。假令へばペリクレスの死は如何と反問せよ、諸子は四八〇年のサラミスの戰を記憶せるを以て、この戰爭はギリシアとペルシアの大戰爭中の海戰なりと判ぜよ、又三二三年アレキサンドル大王の歿したるに照しペリクレスは大戰後にアテネ全勢を致したる人なれば、年代はその間に位すべく、卽ち紀元前第五世紀の頃なるを推測し得可けん。かくまづその事柄を考へ、その事實の聯絡せる重大なる事件に及ぼせば遂に年代を推知するに難かざらるべし。

國史には年號を知るに御歷代天皇を以てし、或は年號を以てし、或は時代を以てし、時に紀元を以てすると雖、西洋史に至りては西洋曆紀元を用うるの外他に方法あらず。然れども何年なりと一々年號を明示するは難きを以て、大凡西洋通用の世紀を擧げ、若し能ふべくんば何世期の初、中頃、又は末、とか、前半期又は後半期と述ぶ可し。

歷史を敎授し又は敎科書を編纂せる名士の內に、年代は唯何百年代と、か、何世紀とかを記憶すれば足れりと主張するものあり。余を以て之を見るにこれ實に危險の事に屬すとす。何となれば標準なければなり。何年と記憶せよと稱して僅に何世紀を記憶するに止まる。然るときは世

紀を記憶せよといはゞ遂に「ゼロー」に終るべく、且その世紀を忘れたるときは標準の年號なきを以て遂に推究の途を失ふ恐あればなり。

●答案の順序

答案を認むるには問題の順序によるを可とす。受驗者は大抵その知れるを先きにし難きを後にす。故に答案の前半分は大凡そ可なりの成績あるも、その後半に至りては率ね種々遺漏誤脫あるを常とす。故にかくの如き答案は後方に已に受驗者の缺點あるを豫知せらるればなり。加之複雜なる答案にありて前後隨意に記述し爲めに試驗官に見落さるの憂あればなり。若し已むを得ずんば各答毎葉に認め問題の順序に整列して差出すべし。

答案文句は可成流暢なるべし、文句澁滯し文字粗略るときは一見して受驗者の學力の劣等なるを表彰するものなり。況や歷史の答案により て習字作文の優劣を判定せらるゝ場合屢之あるに於てをや。

明治三十七年三月十七日印刷
明治三十七年三月二十日發行

西洋史受驗の極意

定價金拾七錢

不許複製

講文學士　小川銀次郎
筆述者　東京市日本橋區通ヲ四丁目七番地　加藤守重
發行者　東京市日本橋區通ヲ四丁目七番地　青野友三郎
印刷者　東京市京橋區南小田原町二丁目九番地　中野鎁太郎
印刷所　東京市京橋區築地三丁目十五番地　帝國印刷株式會社
發行所　東京市日本橋區通ヲ四丁目七番地　青野文魁堂

文魁堂發兌數學書目

算術解法の極意

松岡文太郎著　全一冊　定價金十錢　郵稅金二錢

右は問題の解法に何人も心付かざる注意あることを明にし所説總て天外より來る珍本なり殊に種々なる秘傳心得書を添へたれば受驗者及び獨學者等內密に見玉はゝ益あらん

代數解法の極意

松岡文太郎著　全一冊　定價金十錢　郵稅金二錢

右は代數問題を解くに要する知識を或る簡單なる二法に基くこと其二法を働らかせば問題の何等を問はず自由に解し得ることを記載せる良書なり

代數因子分解活法

松岡文太郎著　全一冊　定價金二十錢　郵稅金二錢

代數に自在ならんと欲せば因子に自在なれとは斯道の公論にして本書の目的なり世に難しと云ふ對稱式も本書に依らば解すること何の苦もなからん

方程式解法及吟味

松岡文太郎編　附不等式極大極小　全一冊　定價金廿五錢　郵稅金四錢

本書の解法に詳しきは勿論兼て其原理性質を明にし六ケ敷〇と∞も根の吟味も値の制限も容易く會得せしめ尙又方程式に不等式に斯學最近の解釋說明を顯したり

聯立方程式解法及能不能

松岡文太郎編　附消去法指數方程式　全一冊　定價金廿五錢　郵稅金四錢

必要なる條件と充分なる條件とに八釜敷は最近の解法なり本書は之を知るに必要にして充分なる良書なり

幾何解法の極意

松岡文太郎著　全一冊　定價金廿五錢　郵稅金四錢

幾何學の問題を解するに如何なる方法を要すべきかは何人も知らんと欲して得ざる所なり本書は問題の解析綜合の法を說き其考定に根據を與へたる最近の珍書なり

三角法解法の極意

松岡文太郎著　全一冊　定價金廿五錢　郵稅金四錢

三角函數公式の解法は勿論其記憶を與へ解法を容易ならしむる等新意のもの少しとせず

算術新法大極意

松岡文太郎新著　全一冊　定價金二十錢　郵稅金四錢

系統的本書は最近の刊行にして內容は解答に苦しむときは受驗に危き時專心二週間本書を讀めこゝに何の新理新法ある

中利通著

理論應用 **算術解法の秘訣** 全一冊 定價金廿五錢 郵稅金四錢

右は四則數の性質分數及小數比及比例開平法開立法歩合算求積雜問數十章に分ち各章各數十題を載せ毎題新式の理論を以て一々簡明に之を解釋し其秘訣を示せり

松岡文太郎校 桑原兵次郎編

受驗者用 **算術難問三百解** 全一冊 定價金廿五錢 郵稅金四錢

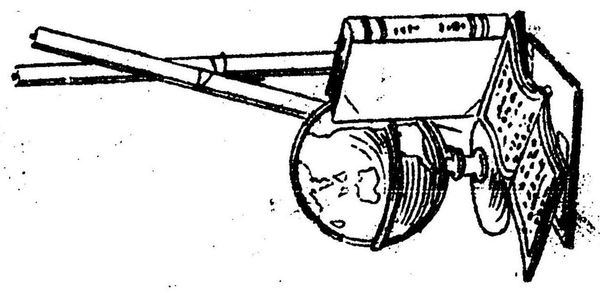
應用難問に一々詳解を附して獨習に便じ且解の仕方解の書方は近世答案の模範たり

松岡文太郎校 桑原兵次郎編

受驗用 **代數問題五百解** 全一冊 定價金三十錢 郵稅金六錢

本書は受驗に必要なる問題五百を選擇し各同に詳解を附し獨習に便ならしめ傍以て答案の手本となすに足る（紙數百八十四頁）

松岡文太郎口演 桑原兵次郎筆述

二週間豫備 **數學受驗法** 全一冊

本書は算術代數幾何三角法に就て夫々試驗の受方を詳說し其受驗前二三週に於ては如何に豫備すべきかを知らしめ傍ら以て其記憶すべき問題解義及び其記憶の仕方まで附記したれば受驗前には必ず一讀の價あり又袖珍本となしたるを以て平生には公式の用をも兼ぬ（三月十五日出版紙數二百三十餘頁）